

「瀬戸内アンテナショップ『SETTO』がシンガポールにオープン」

周辺アジア各国も含め、数多くの市場・企業等調査業務実績を持つ。グループ会社の Crossborder Pte Ltd と二人三脚で、日本企業の M&A、現地パートナーシップ構築を準備段階である川上の調査から実施段階である川下のコンサルティング/アドバイザリーまでのサービスを提供。高い情報収集能力で企業の商談、進出、会社運営をきめ細かくサポート。



今年 7 月、広島県の食材などを揃えた瀬戸内アンテナショップ「SETTO」が繁華街のショッピングセンター Funan にオープンしました。お好み焼きソース、牡蠣などの缶詰、ふりかけ、スナックなど様々な商品が揃っている他、広島のお好み焼きも食べられます。国土が狭いシンガポールでは不動産価格が非常に高く、店舗の家賃もかなりの価格になります。そんな中、あえてリアルなショップを展開した背景を、ショップの開設に奔走された広島銀行シンガポール法人の大西社長にお話を伺いました。



【瀬戸内アンテナショップ「SETTO」の様子】

＜自力で持続できるショップを志向＞

大西社長によると、コロナ禍中、ライブコマースやフェアを開催しましたが、一過性で終わってしまうことが多く、広島の商品の魅力を伝えて定番商品として市場に定着させるためリアルなショップが必要と考えたそうです。ショップの開設に当たっては全国商工会連合会の共同・協業販路開拓支援補助金を受けました。

補助金事業期間中はもちろんのこと、事業期間が終了した後もショップが持続することが重要です。そこで、ショップ運営については、シンガポールでラーメン店などを複数運営する Keisuke Singapore に委託しました。アンテナショップを運営していくためのオペレーション能力と資金力があること、そして、何よりも広島や瀬戸内の魅力をシンガポールに発信したいとの思いに共感してくれたことが決め手になりました。

＜人気商品＞

一番の人気商品はカープの赤色 T シャツ。これはシンガポール限定の「カープ坊や×マーライオン」デザインのもので、食品の人気商品は、瀬戸内レモン味イカ天、レモスコ、ゆかりふりかけ、レモンポテトチップスなど。また、店内で提供しているアルコール飲料の元になっている、「クラフトジン瀬戸内」も、お店で飲んでおいしかったと買っていくお客様もいるそうです。7～8月の売り上げは日本円で約 350 万円と好調なスタートです。

＜お好み焼き教室も開催＞

「SETTO」では、不定期にお好み焼き教室も開催しています。8月には2回開催され、ローカルの人も参加しました。日本食は人気とはいえ、広島風お好み焼きは食べたことがない人も多く、「食べ方を啓蒙していきたい」とのことです。



【広島風お好み焼き教室の様子】

＜インフルエンサーマーケティングなどでPR＞

大西社長によると、今後はオンラインショップを立ち上げ、インフルエンサーマーケティングも行って、広島・瀬戸内の商品を PR、販売を充実させていく計画です。将来的にはアンテナショップ「SETTO」で、牡蠣やその他のおいしい食べ物、風光明媚な景色が豊富な広島を PR する観光情報発信も手掛けていきたいとのことです。

広島のおいしい食材が手に入るようになったのは、一消費者としてもうれしい限りです。これからも、まだシンガポールに来ていない商品が、「SETTO」を通じてシンガポール市場に、ASEAN 市場に羽ばたいていくことを期待したいです。